

# 2016年3月期 本決算説明資料

---

株式会社高松コンストラクショングループ

証券コード:1762

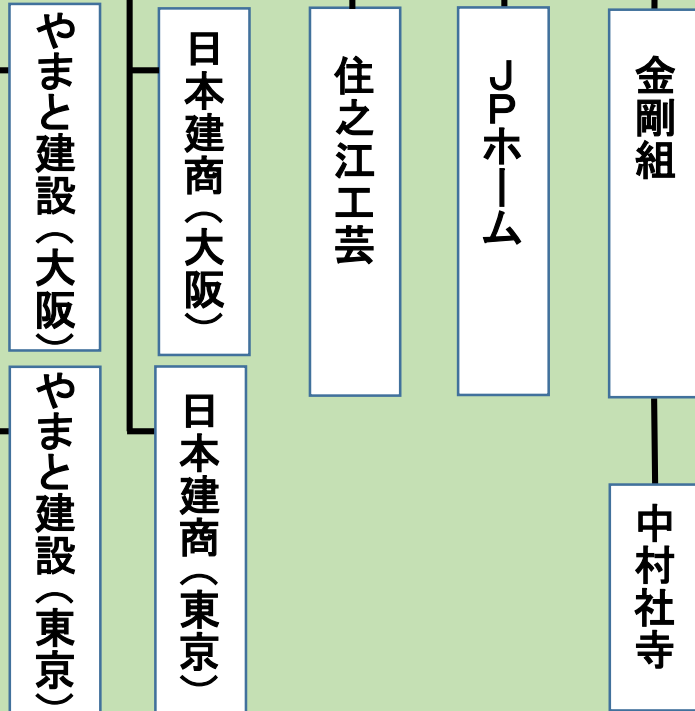
本資料に記載されている将来に関する記述は、本資料作成日現在で入手可能な情報にもとづいて作成したものであり、実際の実績等は今後様々な要因によって異なる可能性があります。また、当資料は投資家判断の参考となる情報提供を目的とするものであり、当社株式の購入や売却を勧誘するものではありません。

# 高松コンストラクシヨングループ（東証一部上場）

## 高松コンストラクシヨングループ

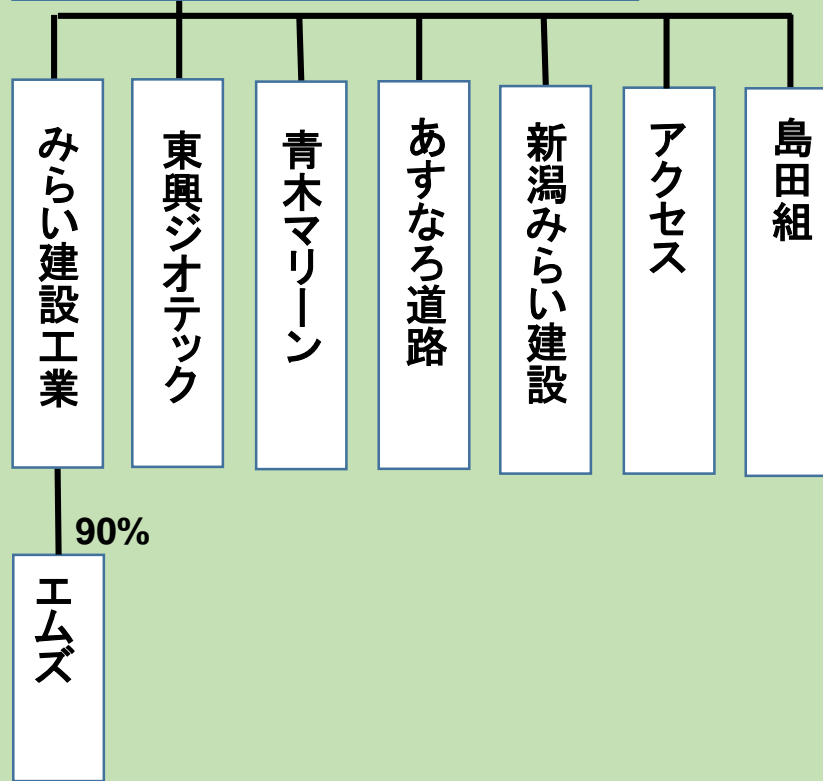
### 高松建設グループ

100%



76.9%

### 青木あすなる建設グループ （東証一部上場）



90%

保有比率は記載ない場合は全て100%

# 2016年3月期決算説明

---

# 業績(連結)の推移

1. 受注・売上は4期連続増収、各々2期連続で過去最高。
2. 営業利益は過去最高、目標としていた5.0%に到達。
3. 親会社株主帰属当期純利益は対前期△8.6%。

→ 前年度、特別利益が大きかったため。

(青木あすなろ建設のA種株の普通株への転換に伴う負ののれん益21億円)

過去最高

(過去最高= □  
単位:億円  
億円未満切捨)

項目	2012/3期	2013/3期	2014/3期	2015/3期	2016/3期		増減率(%)
受注高	1,343	↑ 1,613	↑ 1,938	↑ 2,256	↑ 2,377	↑	5.4
売上高	1,388	↑ 1,499	↑ 1,777	↑ 1,892	↑ 2,088	↑	10.4
営業利益 (営業利益率%)	57 (4.1)	47 (3.1)	↑ 65 (3.7)	↑ 71 (3.8)	↑ 104 (5.0)	↑	45.5
営業外収支	9	1	1	0	0		-
経常利益 (経常利益率%)	66 (4.8)	48 (3.2)	↑ 66 (3.8)	↑ 72 (3.8)	↑ 104 (5.0)	↑	45.1
特別損益	1	1	↑ 22	20	△6		-
親会社株主帰属 当期純利益 (当期純利益率%)	42 (3.0)	29 (1.9)	↑ 61 (3.5)	↑ 63 (3.4)	57 (2.8)		△8.6

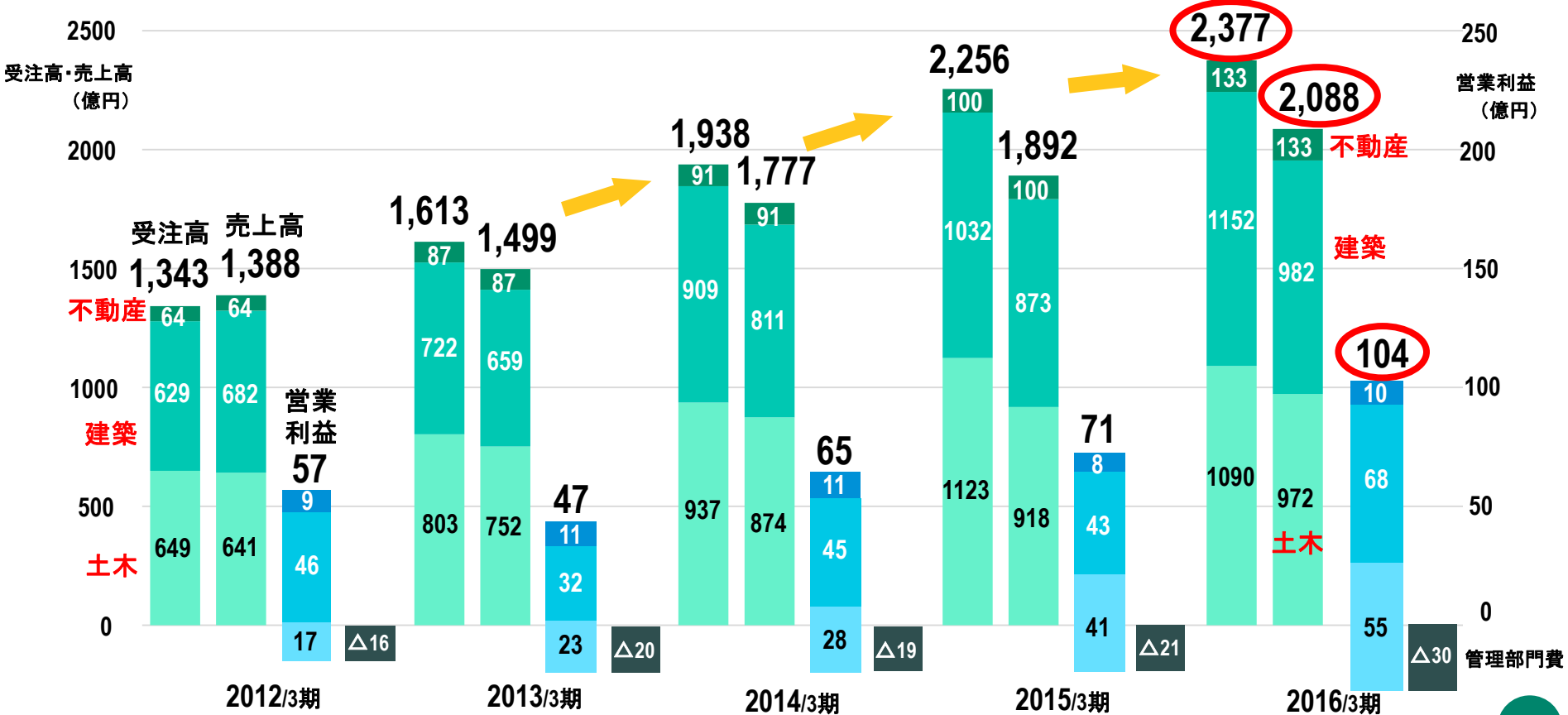
# セグメント別 受注高・売上高・営業利益(連結)

【受注】 日建連97社合計値が0.1%の伸びに対し、当社グループは4.1%(除く不動産)と高い伸び。  
 建築が120億円増。土木は33億円の減だが不動産の増が補う。

【売上】 建築が109億円、土木は53億円、不動産33億円の増。

【営業利益】 建築が68億円(対前期 +25億円)、土木は55億円(+14億円)、  
 不動産が10億円(+2億円)。

利益率は建築6.9%(前期4.9%)、土木5.8%(前期4.6%)、不動産7.5%(前期8.4%)。



# セグメント別・グループ別 売上高

1. グループ売上高をセグメント別に見ると、土木と建築が拮抗。
2. 一方、18のグループ事業会社は  
 建築中心の「高松建設グループ」と  
 土木比率(≒官公需)の高い「青木あすなる建設グループ」で構成。

売上高  
(2016/3期)

2,088億円

## 高松コンストラクショングループ

### 高松建設グループ

695億円

### 青木あすなる建設グループ

1,392億円

土木

972億円

建築

982億円

不動産

133億円

972  
億円

392  
億円

28  
億円

590  
億円

105  
億円

高松建設

やまと建設  
(大阪)

やまと建設  
(東京)

住之江工芸

JPホーム

金剛組

中村社寺

日本建商  
(大阪)

日本建商  
(東京)

みらい建設  
工業

エムズ

アクセス

島田組

みらい建設  
新潟

ジオテック  
東興

あすなる道路

青木マリーン

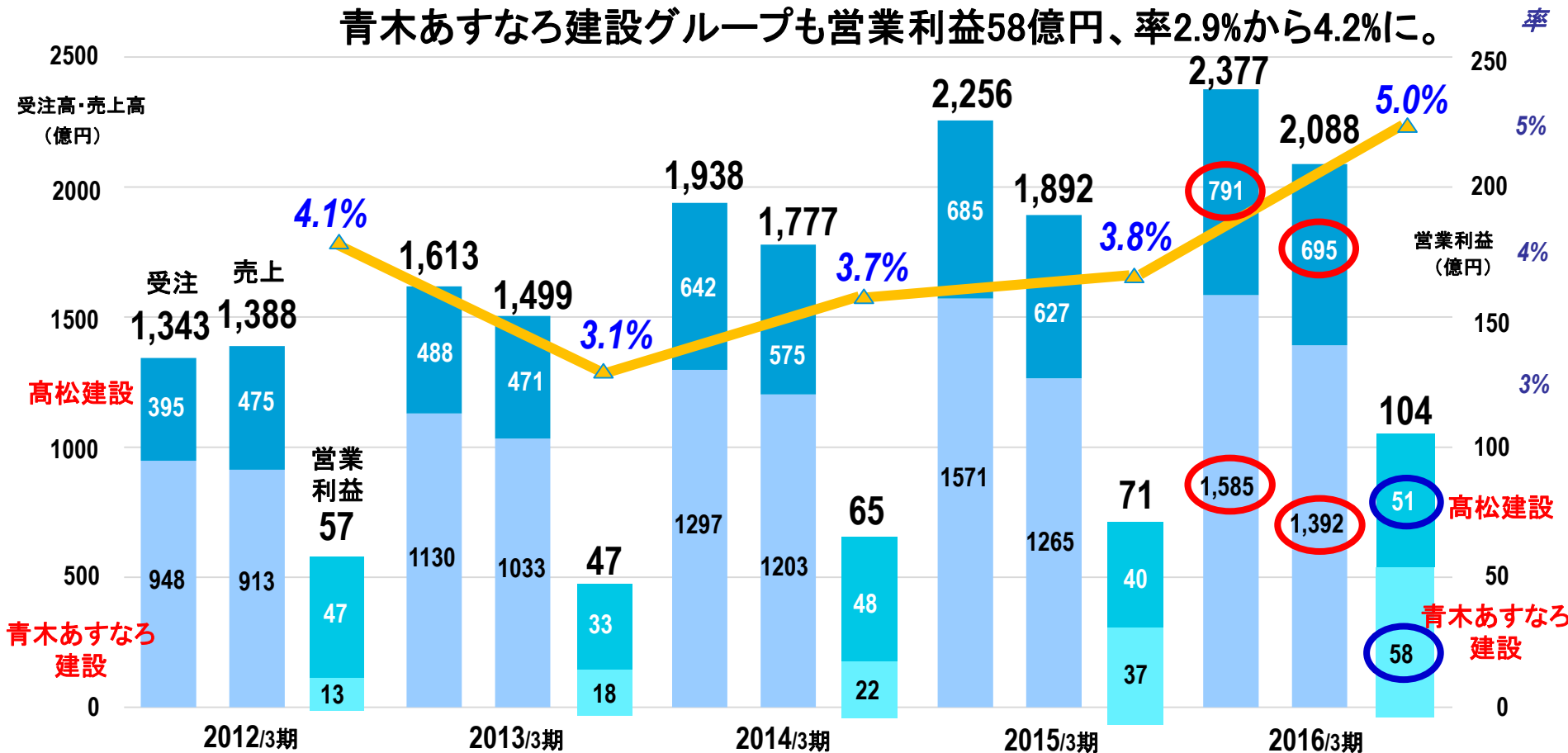
青木あすなる建設

# グループ別 受注高・売上高・営業利益(連結)

【受注】 高松建設グループは15.5%増の791億円となった一方、青木あすなる建設グループは1,585億円と0.9%の伸びに留まった。

【売上高】 両グループともに10%台の対前年増。

【営業利益】 高松建設グループは営業利益51億円。率も6.4%から7.4%へ。青木あすなる建設グループも営業利益58億円、率2.9%から4.2%に。



各数値が合算値と合わない部分は連結相殺・本社経費があるため。

# 経営指標の推移(連結)

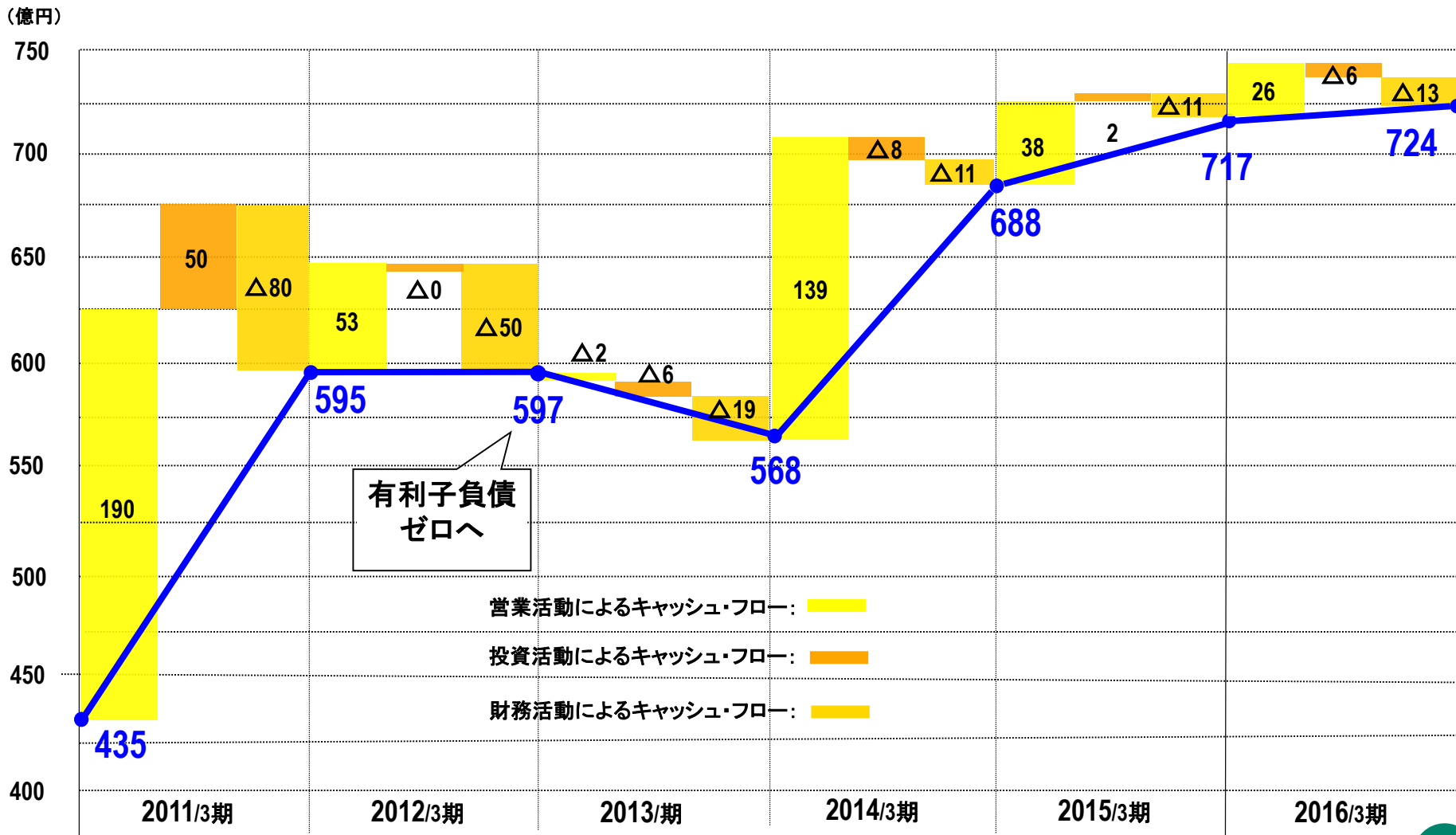
1. 総資産は微増、総負債は微減。
2. 配当額は対前期7円増配し、34円/株へ。  
→ 配当性向を意識し、21.1%と増配により期初発表値に近い配当性向を実施。
3. 従業員数もハイペースで増強し、平均年齢も引き下げへ。  
→ 新卒採用数: 13/4=93名, 14/4=142名, 15/4=200名, 16/4=161名)

項 目		2012/3期	2013/3期	2014/3期	2015/3期	2016/3期	
							増減
総資産	億円	1,376	1,412	1,546	1,621	▲ 1,652	1.9%
総負債	億円	470	491	605	630	▲ 606	△3.7%
純資産(含非支配株主持分)	億円	906	921	941	991	▲ 1,045	5.5%
一株当たり純資産額	円	2,005	2,087	2,220	2,397	▲ 2,528	5.5%
期末株価/株	円	1,290	▲ 1,393	▲ 1,835	▲ 2,566	▲ 2,426	△5.5%
一株あたり配当額	円	23	23	▲ 25	▲ 27	▲ 34	7円
配当性向(%)	(%)	(20.1)	(28.6)	(14.6)	(15.3)	▲ (21.1)	5.8ポイント
自己資本利益率(ROE)	(%)	(5.9)	(3.9)	(7.9)	(7.6)	(6.5)	△1.1ポイント
総資産経常利益率(ROA)	(%)	(4.8)	(3.5)	(4.5)	(4.6)	▲ (6.4)	1.8ポイント
従業員数	人	2,600	▲ 2,666	▲ 2,816	▲ 3,003	▲ 3,196	193
従業員平均年齢	歳	44.7	45.2	45.3	▲ 45.0	▲ 44.4	△0.6



# キャッシュ・フローと現預金残高(連結)

青木あすなろ建設での公共工事の大型化・長期化等があり、キャッシュは微増に留まった。



# 貸借対照表(連結)

1. 資産合計は1,652億円で対前期31億円増と、1.9%の微増。

2. 負債合計は606億円で対前期△23億円減、△3.7%。

(単位:億円)

勘定科目	2015/3期	2016/3期	増減額
流動資産	1,363	1,418	55
現金預金	717	724	6
受取手形・完成工事未収入金等	497	570	72
販売用不動産	52	34	△17
未成工事・不動産事業支出金	11	25	13
繰延税金資産	10	16	5
その他	76	50	△25
貸倒引当金	△1	△3	△1
固定資産	257	233	△24
有形固定資産	142	137	△5
無形固定資産	3	2	△0
投資その他の資産	111	93	△18
投資有価証券	67	58	△8
長期保証金	21	22	0
長期未収入金	12	9	△3
繰延税金資産	11	8	△2
その他	4	3	△0
貸倒引当金	△4	△8	△3
資産合計	1,621	1,652	31

勘定科目	2015/3期	2016/3期	増減額
流動負債	500	482	△18
工事未払金	266	258	△8
未払法人税等	15	26	11
未成工事受入金	114	103	△11
その他	104	93	△10
固定負債	129	124	△5
退職給付に係る負債	104	102	△1
繰延税金負債	5	3	△2
その他	19	18	△1
負債合計	630	606	△23
株主資本	867	915	47
資本金	50	50	-
資本剰余金	2	2	△0
利益剰余金	858	905	47
自己株式	△42	△42	△0
その他包括利益累計額	△4	△4	△0
非支配株主持分	127	135	7
純資産合計	991	1,045	54
負債純資産合計	1,621	1,652	31

# 2016年3月期の主なトピックス (1)

## ◆高松建設・日本建商(大阪) サービス付き高齢者住宅を運営

2015年11月より「エニシエ」ブランドにて運営開始。

高齢者施設で累計71棟(2016年3月現在)の実績を持つ高松建設が建設。

日本建商(大阪)が運営。建設から運営まで、グループでのワンストップ体制で実施。

現在、「エニシエ北巽(大阪)」、「エニシエ川西加茂(兵庫)」の2棟が運営中。

首都圏や中京圏を含め今後も受注・運営拡大を図る。



エニシエ北巽



エニシエ川西加茂

# 2016年3月期の主なトピックス (2)

## ◆高松建設 名古屋市賃貸マンション初の長期優良住宅完成

高松建設の設計施工物件では2棟目となる長期優良住宅認定賃貸マンション。

周辺物件との明確な差別化を行うことで、長期的に安定した競争力を持たせた。

### 【時代の先端 「IZUMI 桜鈴館」の設計・施工内容】

- ・耐用年数約100年以上
- ・建築基準法の1.25倍の地震力にて設計
- ・将来の間取り変更を見据えた階高約2.96m～3.16m
- ・全戸にペアガラスを採用
- ・断熱材の厚さは通常の約1.6倍
- ・花粉症対策として、  
共用エントランスにはエアシャワー室  
住戸内に花粉除去フィルター付き24時間換気システム
- ・アウトフレーム逆梁ハイサッシの採用により、優れた採光

\*長期優良住宅とは

「長期優良住宅の普及の促進に関する法律」は平成21年に施行され、長期優良住宅の認定制度が開始。構造躯体等の劣化対策、耐震性、可変性、維持管理・更新の容易性、高齢者等対策、省エネルギー対策、一定以上の住宅規模、及び良好な景観の形成への配慮等が定められている。



IZUMI 桜鈴館

# 2016年3月期の主なトピックス (3)

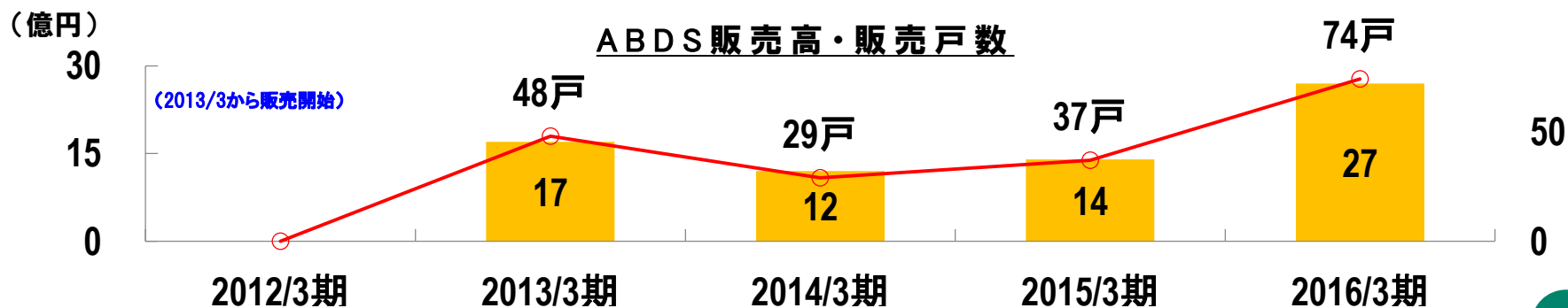
## ◆青木あすなろ建設 ABDS事業・堅実に増加中

・自社分譲マンション事業「アビダス」(ABDS)の販売高は順調に増加中

### 販売実績

Aoki-asunaro Build & Direct Sales

物件名	所在地	総販売戸数	販売状況 (2016年5月末現在)
アビダス稲城駅前	東京都稲城市	48戸	販売終了
アビダス町田中町イースト・ウェスト	東京都町田市	56戸	販売終了
アビダス町田中町パークス	東京都町田市	40戸	販売終了
アビダス町田中町ブライト	東京都町田市	20戸	販売終了
アビダス舎人テラス	東京都足立区	47戸	販売終了
アビダスタマプラーザ	神奈川県川崎市	61戸	販売中



# 2017年3月期 業績予想

---

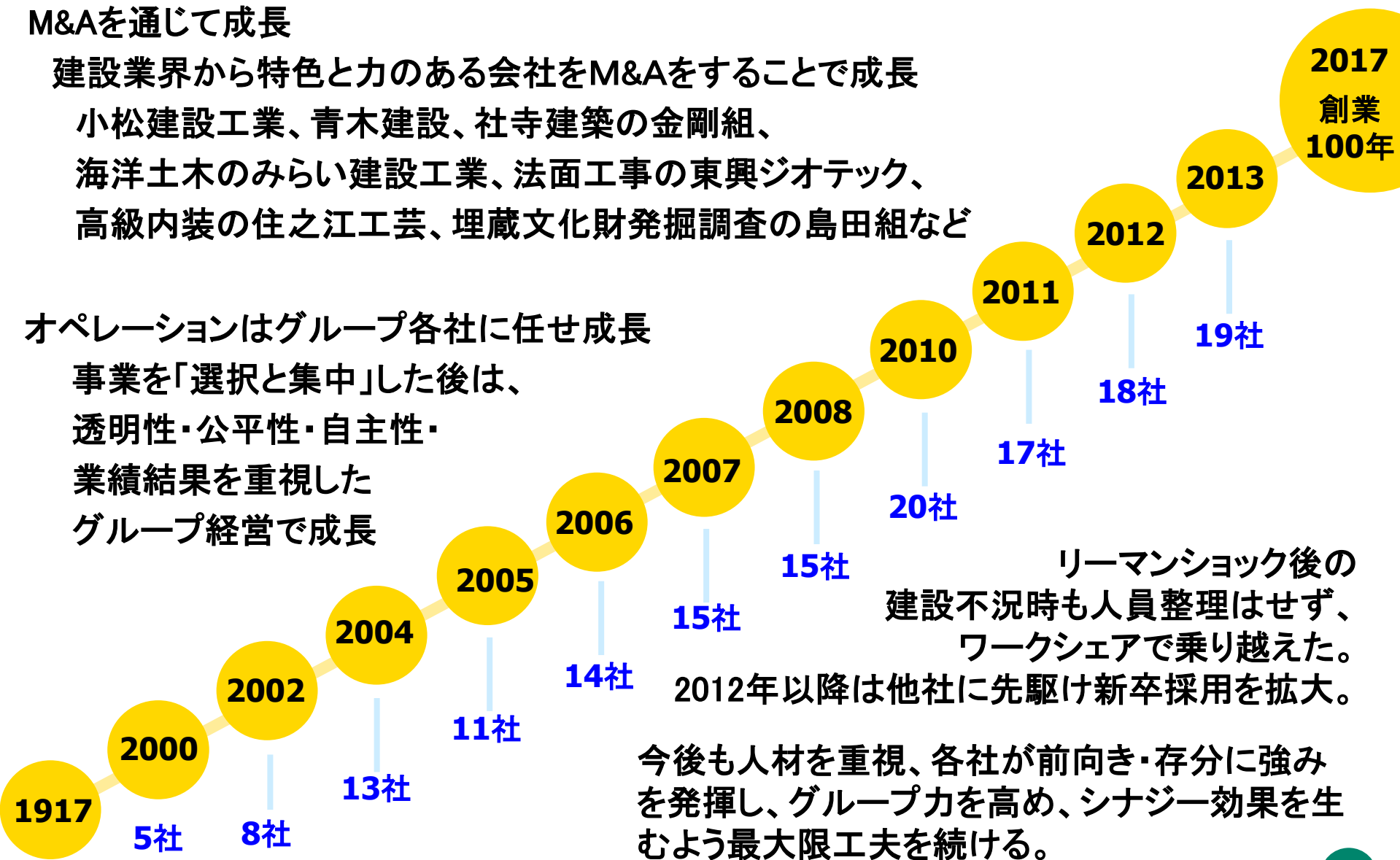
# 高松コンストラクショングループの特徴

## M&Aを通じて成長

建設業界から特色と力のある会社をM&Aをすることで成長  
小松建設工業、青木建設、社寺建築の金剛組、  
海洋土木のみらい建設工業、法面工事の東興ジオテック、  
高級内装の住之江工芸、埋蔵文化財発掘調査の島田組など

## オペレーションはグループ各社に任せ成長

事業を「選択と集中」した後は、  
透明性・公平性・自主性・  
業績結果を重視した  
グループ経営で成長



リーマンショック後の  
建設不況時も人員整理はせず、  
ワークシェアで乗り越えた。  
2012年以降は他社に先駆け新卒採用を拡大。

今後も人材を重視、各社が前向き・存分に強みを発揮し、グループ力を高め、シナジー効果を生むよう最大限工夫を続ける。

# 高松建設グループについて

1. 高松建設は当グループの母体、かつ青木あすなろ建設と並ぶグループの中核会社
2. 高松建設はお客様に徹底的に寄り添った賃貸マンション建設で成長
3. 確固たるビジネスモデルを確立
  - 東・阪・名に集中、土地有効活用ビジネスの先駆的存在(1960年代より確立)
  - 富裕層への提案型営業 (税務・法務(相続)・建築・不動産事業を含めたトータル提案)
  - 駅前にランドマーク的マンションを建設、高入居率・高賃料物件を提供
4. 建築累積棟数は首都圏1,163棟、近畿・名古屋圏2,974棟、計4,137棟
5. 2016/3期には創業以来最高の売上高を更新(483億円)
6. 2017/3期も更なる更新を目指す





# 青木あすなる建設グループについて

1. 青木あすなる建設グループは、青木あすなる建設を中心とした9社で構成される東証一部上場企業。
2. 青木あすなる建設単体での土木建築比率は受注高・売上高ともほぼ5:5。
3. 連結ベースでは、海洋土木に強みを持つみらい建設工業・青木マリーン、法面保護・舗装工事が得意な東興ジオテック・あすなる道路・新潟みらい等が揃い、土木:建築が7:3と土木が中心となる。
4. 研究開発にも注力。（「既設橋梁の耐震性向上技術の研究」「壁面走行ロボットの導入と応用技術の開発」「折り返しブレース」等）
5. 青木あすなる建設単体をはじめとする売上総利益好転により、青木あすなる連結での損益が大幅に好転し、2016/3期の高松コンストラクショングループ好決算に大いに貢献。



海ほたる



新宮川ダム(福島県)



的山大島風力発電所(長崎県)

# 当期(2017年3月期)の外部環境認識

## 国内建設業を取り巻く環境

1. 2020年(東京オリンピック)迄は、国内建設市場は概ね現状規模維持、との見方を継続
2. 公共投資: 当期は若干のマイナスを予想  
東日本震災関連需要はピークアウト、熊本地震は顕在化しないと見る。
3. 民間設備投資  
不透明な環境が継続するが、当期は公共投資の減をカバーする程度成長、と見る  
一方、賃貸住宅投資分野は、「底堅い」環境継続、と見る
  - 人口減・空室増加問題等はあるが、東京は流入継続、阪・名も限定的
  - 相続税法改正、都市圏地価上昇、低金利は継続
  - 高齢者向け賃貸需要の増加も継続
4. 建設技能労働者の高齢化・新規入職者の確保は業界を挙げての長期的課題。  
→ 今後2～3年は堅調な市況が継続と判断し、当社は成長路線を維持する。

# 高松建設グループの成長戦略と2017年3月期方針

1. 高松建設は賃貸マンションに軸足を置きつつ、周辺業務に積極的にチャレンジ  
→ 地域的には首都圏市場の受注獲得に力点を置く
2. グループ他社は中計達成に注力する
3. 営業利益は2016/3期に若干増の**52億円確保**が目標。

	基本戦略	目標
高松建設	賃貸マンション事業のシェア拡大 事業用施設の売上高拡大 不動産関連事業の成長継続 地域的には <b>首都圏比率を高める</b>	<b>2017/3期の売上高 500億円</b> (対16/3期 +4%) (対中計 ±0%)
日本建商 やまと建設 JPホーム	高松建設と連携を強化し、 売上増・効率アップを実現 新規事業(サ高住)のスムーズな売上貢献	<b>2017/3期の売上高 250億円</b> (対16/3期 +16%) (対中計 ±0%)
住之江工芸	首都圏事業の拡大強化	
金剛組 中村社寺	受注競争は激化しているが、ブランド力を最大活用 日本古来の建築文化の伝承を継続	
アローアンス		<b>△10億円</b>

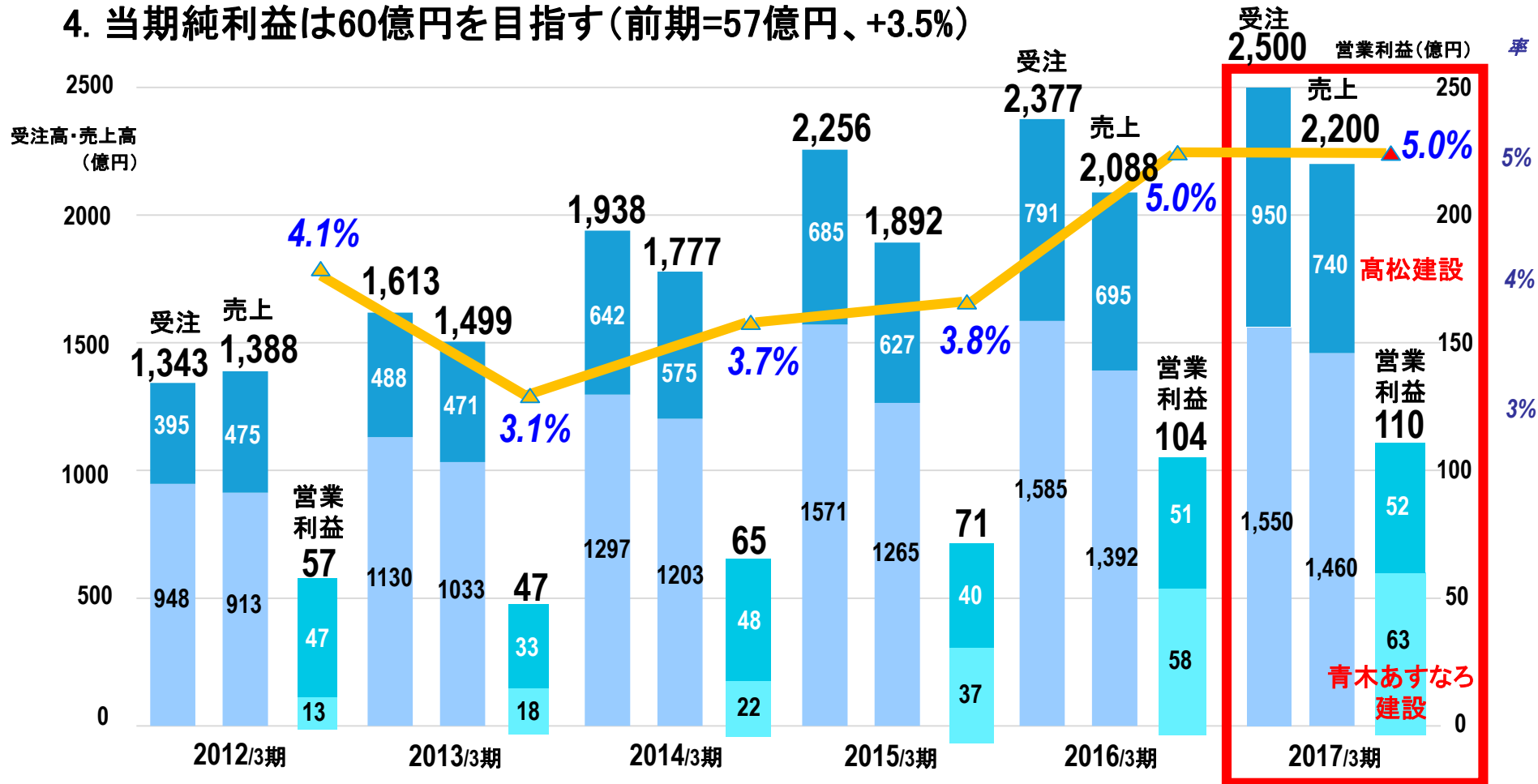
# 青木あすなろ建設グループの成長戦略と2017年3月期方針

1. 青木あすなろ建設は「技術力の強化」「新規事業分野の確立」「顧客拡大」がキーワード。
2. グループ会社は「得意分野へ集中」しつつ、「専門技術を開発・改良」。
3. 売上高は引き続き増加を見込む。営業利益も63億円と対前期+5億円を見込む。
4. 一方、選別重視の受注高は若干減少を見込む。

	基本戦略	目標
建築	固有耐震技術を活かし、建築リニューアル分野の拡大 官庁及び民間非住宅分野の拡大	<b>2017/3期売上高</b> <b>1,460億円</b> (対16/3期 +4.8%) (対中計 +0.7%)
土木	固有無人化施工技術を活かした機械化分野の拡大 固有技術・経験を活かした新エネルギー・土木リニューアル分野の拡大 グループ会社の専門技術を活かした事業分野拡大 (海上・港湾・法面保護・地盤改良、舗装等)	
共通	大規模プロジェクトへの参画 防災・減災・機械化等の研究開発活動強化・実用化 協力業者との連携強化(マイスター制度の拡充等)	

# 2017年3月期:グループ別 受注高・売上高・営業利益(連結)

1. 中計および期初発表値をクリアした前期に続き、2017/3期も増収増益を目指す
2. 受注高は2,500億円を目指し、売上高も中計通りの2,200億円(対前年+5.4%)を計画
3. 営業利益は中計を20億円上回る110億円(対前期+5.7%)を計画。利益率は5.0%を堅持
4. 当期純利益は60億円を目指す(前期=57億円、+3.5%)



各数値が合算値と合わない部分は連結相殺・本社経費があるため。

# 2017年3月期:事業・経営基盤強化戦略

## 1. 基本は中計目標の実現に向け継続邁進、次期中計でさらなる飛躍を目指す。

	基本戦略	目 標	重点施策、現状等
事業 基盤	1. 技術力強化	持続的成長につながる 技術力の蓄積	・技術研究所のグループ活用強化
	2. 新規事業立上げ	9年後のコア事業化	・戦略的M&Aの取組み
	3. 事業の 選択と集中	事業ポートフォリオ再構築 中期経営計画の策定	・伸びる事業への資源集中 ・中計でグループ方向を確定し、 成長力・収益力を最適化
	4. グループシナジー	連携強化による相乗効果の発揮	・中核会社の事業支援力や情報共有の強化
経営 基盤	1. 人材育成	伸びる人材を採用し、 実践力を早期に習得	・採用強化 (新卒採用:13/4=93名、14/4=142名、15/4=200名 16/4=161名、17/4=190名) ・研修制度の整備・拡充
	2. 人事諸制度 の改革	働きやすさの向上、 活力ある組織を実現	・給与、休暇制度の充実 ・人事評価制度の見直し
	3. 重要経営指標	営業利益率 5.0%以上 配当性向重視の配当政策	・16/3期で前倒し達成。継続達成へ ・配当性向25%を目指し経営
	4. グループガバナンス	リスク管理の徹底	・内部監査機能の強化
	5. 攻めの ガバナンス	成長を支え、企業価値最大化 に向けた体制づくり	・方針、基準、手続きの明確化と開示 ・諸制度の検討と積極的採用

# コーポレートガバナンス・コード 対応について

次のような対応を鋭意進める。

## ◇ 株主の権利・平等性の確保 への対応

- |                    |                           |
|--------------------|---------------------------|
| 1. 招集通知の早期発信       | 6/ 2 発送 → 6/23 株主総会（中20日） |
| 2. 電子的公表（TDnet、HP） | 5/25開示（発送 8日前）            |
| 3. 株主総会開催日         | 6/23 開催（第4集中日）            |
| 4. 議決権の電子行使        | 今回の株主総会から採用               |
| 5. 資本政策の基本方針       | 配当性向に係る数値目標の設定            |

## ◇ 情報開示の充実

- |             |                    |
|-------------|--------------------|
| 1. 英語での情報開示 | 決算短信、パンフレット、ホームページ |
|-------------|--------------------|

前年度に提出したCGコード報告書においてエクस्पラインした5つの事項のうち次の項目について整備を実施ないしは実施予定。

- ◇ 独立社外取締役の2名以上の選任（原則 4-8）
  - 今回の株主総会で2名の選任を予定
- ◇ 取締役会全体の実効性の分析・評価、開示（補充原則 4-11-3）
  - 分析・評価は実施済で、6月下旬に開示予定
- ◇ 議決権電子行使のための環境づくり、招集通知の英訳（補充原則 1-2-4）
  - 議決権電子行使を今回の株主総会から採用（招集通知の英訳は未実施）

# 2017年3月期：経営指標の目標（連結）

1. 配当額は対前期 5円の増配を計画。39円/株へ。  
 → 配当性向は 21.1% から 23.4% に増加を予定。  
 → 今後は、25% を当面の目標として検討を進める。

2. 従業員数も増強を計画。

→ 新卒採用数：13/4=93名，14/4=142名，15/4=200名，16/4=161名、17/4=190名)

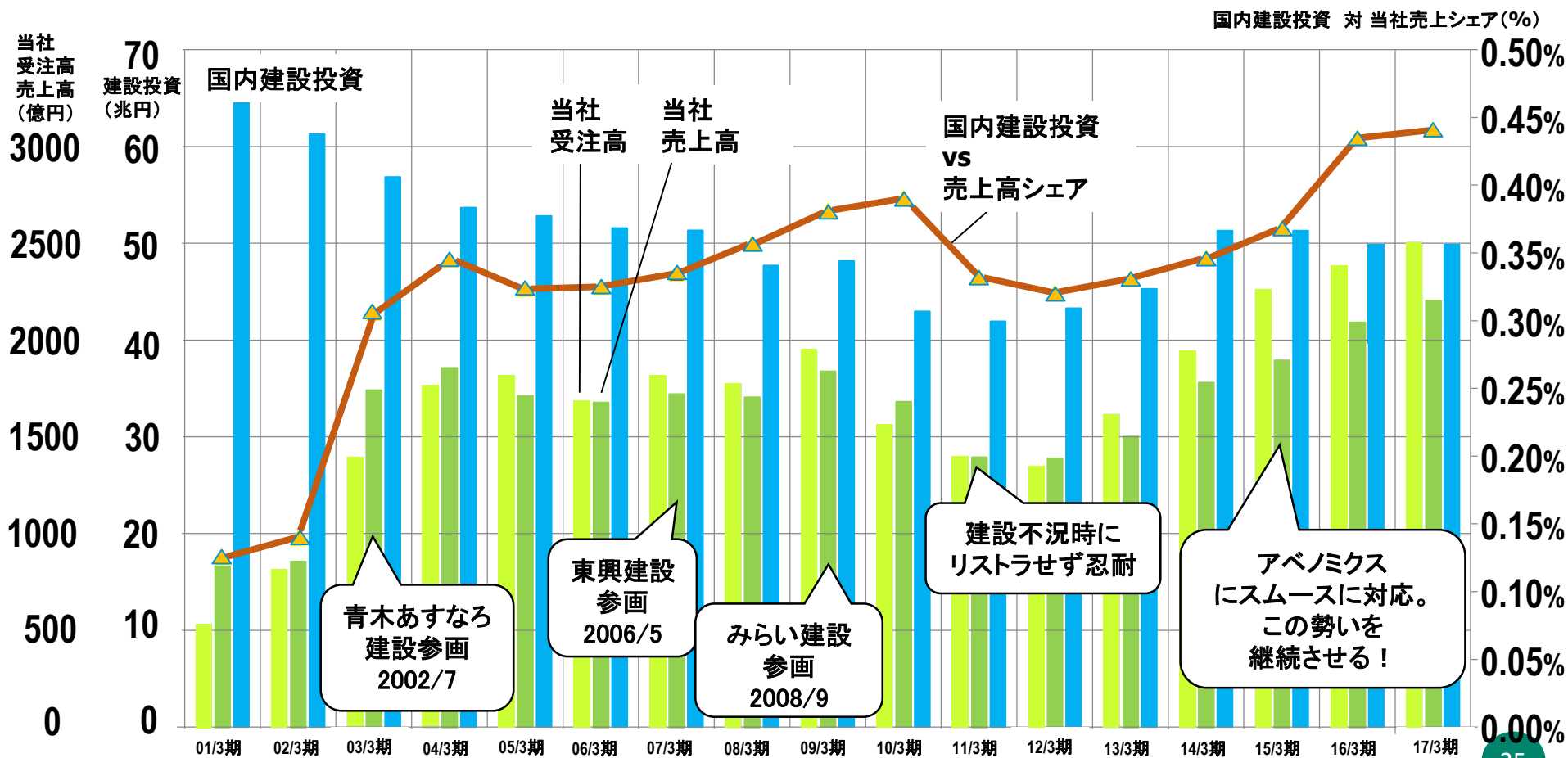
項 目		2014/3	2015/3	2016/3		2017/3	
				増減	増減		
総資産	億円	1,546	1,621	1,652	▲ 1.9%	1,720	▲ 4.1%
総負債	億円	605	630	606	▲ △3.7%	620	▲ 2.3%
純資産(含非支配株主持分)	億円	941	991	1,045	▲ 5.5%	1,100	▲ 5.3%
一株当たり純資産額	円	2,220	2,397	2,528	▲ 5.5%	2,662	▲ 5.3%
期末株価/株	円	1,835	2,566	2,426	▲ △5.5%	?	?
一株あたり配当額	円	25	27	34	▲ 7円	39	▲ 5円
配当性向 (%)	(%)	(14.6)	(15.3)	(21.1)	▲ 5.8point	23.4	▲ 2.3point
自己資本利益率(ROE)	(%)	(7.9)	(7.6)	(6.5)	▲ △1.1point	(6.5)	-
総資産経常利益率(ROA)	(%)	(4.5)	(4.6)	(6.4)	▲ 1.8point	(6.5)	-
従業員数	人	2,816	3,003	3,196	▲ 193人	3,350	▲ 154人
従業員平均年齢	歳	45.3	45.0	44.4	▲ △0.6		

2017/3期の斜体字は推測値



# 国内建設投資額の推移と当グループの歩み・展望

1. 当グループはM&Aを一つの軸として成長し、その後の対応で成長への力を蓄えてきた。
2. 一方、2012年のアベノミクス以降は自力でスムーズな売上増とシェアアップを達成。
3. 現在の受注状況を考えると、短期的な受注・売上高については楽観的。
4. 今期もシェアアップは継続達成を目指す。



# 2017年3月期の主なトピックス

---

1. 2016年3月期に売上高2,000億円、営業利益率5.0%、営業利益100億円越えを達成。
2. これら数値を安定的に成長させることで、高収益な準大手建設会社として定着させていきたい。
3. 2017年3月期は、創業100周年である2018年3月期を迎える直前の年度となる。
4. 本日ご説明した数値を達成した上で、今年度末までに中期経営計画を策定・開示し、今後3～5年のグループの進むべき方向を提示したい。



株式会社高松コンストラクショングループ